

北図書館だより1月号 ほうれんそう

<https://www.amagasaki-library.jp/>

《新・尼崎の本棚 83》



令和3年(2021)第439号

尼崎市立北図書館
尼崎市南武庫之荘3-21-21
TEL (06) 6438-7322
FAX (06) 6438-7344

五兵衛さんのお墓

寛文10(1670)年、武庫庄の辺りはフケ田といい泥の深い田んぼでした。米の出来も悪く、そのため殿様が田んぼをつぶし、水源を確保するため池にすると言いました。村人のひとりである五兵衛さんは「田んぼをつぶしては村人が生活できなくなる」と殿様に計画を中止してもらおうよう訴えました。しかし、殿様に逆らったとして五兵衛さんは打ち首を言い渡されてしまいました。打ち首の直前に、改心した殿様は、五兵衛さんを許すよう早馬を出しました。使者は馬上より「首をはねるのを待て」と叫びましたが、遠目には「早く首をはねよ」に見えた為、役人が打ち首にしてしまいました。村人たちは大変悲しみましたが、五兵衛さんのおかげで、田は残り池にされる事はありませんでした。このことに感謝した村人は、村の英雄としてお墓を立て、五兵衛さんを偲びました。今でもこのお墓は、武庫之荘1丁目の住宅街にあり大切にされているという事です。

近世の尼崎藩は年貢増徴につながる事から、新田開発が盛んでした。人口の80%が農業に従事しており、田畑の開発には上記の伝承の様に様々な困難があったことが伺えます。新田開発はその後も続き近世初頭から幕末まで続けられたという事です。(参考:『尼崎市史 第10巻』渡辺久雄/編 尼崎市役所 『武庫地域・散策ガイドブック』ふるさとを知る会/編集発行)

◆日本人とお米

稲作は古く縄文時代には行われていたとされており、お米は日本人にはなくてはならない食べ物の一つです。8世紀にまとめられた『古事記』『日本書紀』には“瑞穂の国(米の国)”と書かれてあり、米とともに日本人の歴史は紡がれてきたと言えます。

米という漢字は八十八と書くように、お米を作るには88工程があるといわれています。米を作るには苗づくりや田植え、稲刈りなど手間がかかる事から大変さが表されています。また“一粒のお米には七人の神様がいる”という言葉もありますが、食べ物の恵みや作ってくれた人の苦勞に感謝するとともに、米一粒も大切に食べようという日本人の気持ちが込められています。日本の食品ロスは現在、年間600トンを超えるとされており、飽食の時代だからこそ食べ物に対する姿勢を振り返っていききたいものです。

(参考:『米』講談社/編集発行)

●「米」についてならこんな本●

『日本一おいしい米の秘密』大坪研一/著 講談社 211769554

『米の物語』小泉光久/著 大月書店 221768860

『図解 知識ゼロからのコメ入門』家の光協会/編集発行 212194533

<図書館の休館日> 印の日はお休みです

1月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

2月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28						



1月:睦月(むつき)

食べ物:ハクサイ、カリフラワー、ゴボウ、ナノハナ、レンコン、ナガイモ
植物:ウメ、オキザリス、アザレア、オオイヌフグリ、アザミ、カンツバキ
季語:氷、波の花、白鳥、葉牡丹、寒椿、水仙、厄払い、

開館時間 午前9時~午後8時(日曜・休日(○)は、午後5時15分まで)

2021



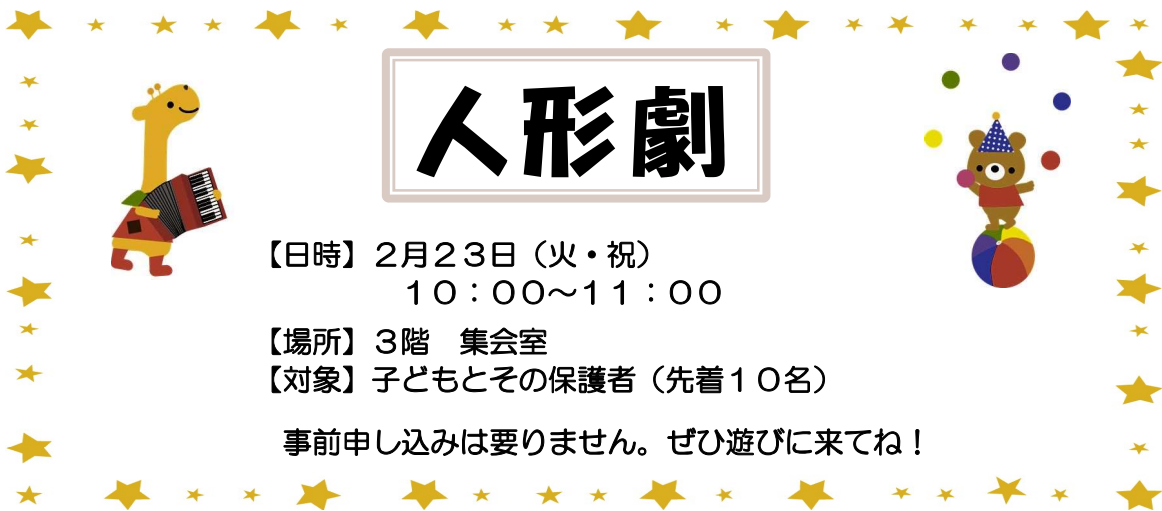
明けまして



おめでとうございます



本年も 北図書館を
よろしく願いたします



人形劇



【日時】 2月23日（火・祝）
10:00~11:00

【場所】 3階 集会室

【対象】 子どもとその保護者（先着10名）

事前申し込みは要りません。ぜひ遊びに来てね！

チャリティ・リサイクルブックフェア 募金収益のご報告

11月14日（土）に開催しましたチャリティ・リサイクルブックフェアでは、多数のご来場とともに募金のご協力ありがとうございました。
皆様からの募金の収益をもとに、琴の浦ライオンズクラブから大活字本を寄贈していただきます。

収益の総計：22,661円



<1月展示のご案内>

一般大展示 「にっぽんのよきもの」
2階展示 「愉^{タノ}シイ文豪」



障がい者と高齢者向けの朗読会

【日 時】 1月20日（水） 午後2時から1時間ほど

【場 所】 3階 集会室

【内 容】 『本所深川ふしぎ草紙』より

「送り提灯」 宮部 みゆき／著

『はつてんじん（初天神）』 川端 誠／著

朗読はボランティア「ま・どんな」のみなさんです。

人を読む 角野栄子

1935～東京生まれ。早稲田大学教育学部英語英文科卒業。
『魔女の宅急便』で野間児童文芸賞、小学館文学賞受賞。
2018年、国際アンデルセン賞・作家賞を受賞。ほかの作品
に『ラストラン』『ズボン船長さんの話』など多数。

『トンネルの森1945』

角野 栄子[著]／KADOKAWA

戦争のさなか、五歳で母を亡くしたイコは祖母のタカと暮らしていたが、やがて父が再婚。仕事のある父と別れ、継母とまだ赤ん坊の弟とで疎開する。その家のそばに暗く大きな森のトンネルがあって……。戦時中の生活、空襲など、著者が自らの戦争体験から描いた物語。

『ネネコさんの動物写真館』

角野 栄子[著]／新潮社

ネネコさんが母から受け継いだのは「あなたのペットの写真をとります」という看板を掲げた動物写真館。お客さまのペットは犬からトラまで様々……。そんなある日、ネネコさんが受けた仕事の依頼は春の予感とともに幸せを運んでくる。大人の女性におくる恋の物語。

『角野栄子の毎日いろいろ』

角野 栄子[著]／KADOKAWA

「角野さんの毎日」から「衣・食・住」にまつわる、自分の定番の色、食べることの楽しさ、おしゃれについて著者が語る。特別収録の掌編「おいとちゃん」と、巻末には角野栄子年譜、創作リストほか、数多くの児童文学を生み出す著者の魅力がたくさんつまった一冊。

『角野栄子のちいさなどうわたち1』

角野 栄子[著]／ポプラ社

おいしいものが大好きな小さなおばけの男子、アッチの「スパゲッティがたべたいよう」ほか、とこやさんの鏡の裏に住んでいるおしゃれなコッチ、あめやさんの階段に住んでいる歌の好きなソッチ、小さなおばけたちがくり広げる、ゆかいな物語。角野栄子の自選童話集。

【小学1～2年生から】

本名は渡辺栄子。結婚後ブラジルに移住し、2年間滞在する。その体験をもとに描いたノンフィクション『ルイジンニョ少年 ブラジルをたずねて』でデビュー。代表作『魔女の宅急便』は娘の描いた魔女の絵から着想を得た作品で、1989年にアニメ映画、2014年に実写映画化、舞台化もされている。娘のくぼしまりおも児童文学作家。

児 童 室 1 月

おはなし会



土曜日

おひざのうえのおはなし 午後2:00~
 小さい人(ようちえん) 午後2:15~
 場所: 3階集会室

1/9(土)

●おひざのうえ
 「どうぶつドド」
 「くだものあーん」

●小さい人

「すずめくんどどこごはんたべるの？」
 「ねずみじょうど」



水曜日

あかちゃんひろば

(第1・第3水曜日)

場所: 1階絵本コーナー

1/6(水)、1/20(水)
 午前11:00~11:20

0歳~2歳くらいのお子さんと
 保護者向け

赤ちゃん絵本、わらべうた、手遊び



日曜日

(第2・第4日曜日)

場所: 1階ロビー

1/10(日)、1/24(日)
 午前11:00~11:20

2歳くらいから

季節の絵本や紙芝居など

1



今月の展示

『ふゆのえほん』

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6 	7	8	9
10 	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20 	21	22	23
24 	25	26	27	28	29	30
31						